

去る11日に韓国の済州島で行われた韓国主催の国際観艦式に際して、韓国政府が参加国にそれぞれ別の軍艦旗使用を自粛するようにと要請した。この通達の本意は海上自衛隊が旭日旗を掲げて入港することを抑えることにあったのは明白だった。このことは、文在寅政権の嫌日観を示しており、これからの日韓関係が憂慮される。

国際的儀礼を欠く文大統領

韓国では自衛艦旗である旭日旗を「日本軍国主義の象徴」とか「戦犯旗」などと言いつつ出しており、同旗が新しい嫌日対象となりつつあったが、文政権はそれを一挙に政府レベルに上げてしまった。国会議員が韓国の領海内での旭日旗使用を禁止する法案を提出したが、これは文政権の国際観艦式に刺戟されたものである。

文政権は、国際観艦式での参加艦船には自国旗と韓国旗のみを掲げて自国軍艦旗の掲揚を控えるようにとの指示を出した。そうしておきながら、文大統領の艦船だけは、16世紀末の対日海戦時に朝鮮水軍(海軍)の将だった李舜臣を

安保協力壊す韓国の旭日旗拒否

象徴する旗(帥子旗)を艦船の中央に大きく掲げるといふ国際的儀礼を欠いたことをやっていたのである。この「抗日英雄の旗」を国際的式典で掲げたのは、2013年の日韓サッカー試合で、韓国側が「歴史を忘れた民族に未来はない」と書いた非礼な横断幕を掲げたのと同類ではないか。

正論



平和安全保障研究所 理事長

西原 正

軍艦が軍艦旗を掲げるべきことは国連海洋法条約にも規定されており、軍艦旗は国の主権の象徴でもある。旭日旗は自衛隊の「軍艦旗」として国際的にも広く認知されており、日本と戦った米国もこれを問題視したことはない。

観艦式に艦船を出して参加した外国海軍は10カ国であったが、そのうちの7カ国は韓国の指示に従わず自国の軍艦旗を掲げて観艦式に臨んだ。米国と残りの2カ国の場合は自国旗が軍艦旗でもあるので、事実上、全参加国が韓国の国際的儀礼を欠いた非常識な指示に

従わなかったことになる。それは参加国の集団抗議であり、文大統領の一大失策であった。さらに文大統領が艦上の演説で「強い海軍こそが韓国を強くする」との言辞も国際観艦式には不適切な表現だった。海軍の国際協力を力説すべきであり、国威発揚に国際的行事を悪用したといってもよかった。

新しい嫌日シンボルになった1998年と2008年の韓国での同様の行事では、海自艦艇は旭日旗を掲げて参加し何も問題に

ならなかったといわれる。自衛艦船が初めて韓国に入港したのは1996年だ。その後、護衛艦は韓国海軍との合同演習に幾度も参加するようになったが、一般に公表されることはなかった。初めて公表されたのは2012年4月で護衛艦2隻が釜山に入港したときだった。それでも旭日旗が問題になることはなかったという。

えることになったよつである。韓国が日本と戦争したわけでもないのに旭日旗を嫌うのは、「坊主憎けりや、袈裟まで憎い」に類した心理なのだろうか。

16年5月に日米韓蒙、シンガポール、マレーシアの6カ国海軍が西太平洋潜水艦脱出・救助演習を済州島沖で行った際、海自艦船の旭日旗が報道され、済州基地への入港を拒否する動きが起きたという。このため、全参加国が協議をして、済州基地への入港を断念し、鎮海基地を利用することになった。

今年是小淵恵三首相と金大中大統領とが1998年10月に「日韓共同宣言」21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」を発表して20周年に当たる。文政権が嫌日世論を放置している姿勢は遺憾である。文政権は日韓関係を発展させたいと口では言いつつ、それに逆行する行動をとっている。

こうした環境では、朝鮮半島有事において日米韓の軍事的連携は不可能である。また邦人はおろか、韓国人の救出のために、海自艦船が韓国領海に入ることもできないことになる。

謝罪を防衛交流継続の条件に

文大統領の厳しい嫌日姿勢は大統領になる前からである。大統領就任後は、15年末の慰安婦に関する日韓合意や慰安婦のために前政権が設立した財団の否定、慰安婦像の量産の放置、「慰安婦の日」(より詳しくは「日本軍慰安婦被害者をたたえる日」)を国家記念日(8月14日)としたことなど、未来志向的ではない。これと併せて微用工の問題が蒸し返されている。

岩屋毅防衛相は「今回のことは非常に残念だが、それを乗り越え、さらに韓国との防衛交流、安全保障交流を進めたい」と述べたが、韓国の非礼を大目に見る態度は結局、韓国にさらなる非礼を許すことになる。外務省も防衛省も「遺憾の意」の表明だけでなく、行動での改善を要求すべきである。今度の韓国側の一連の行為には謝罪を要求すべきであり、改善を防衛交流継続の条件にするべからぬ態度をとるべきである。

(こしはり まさこ)